



# 木育

ってなあに？



## もくじ

木育とは・・・・・・・・・・・・・・・・ 01

木育の進め方・・・・・・・・・・・・ 03

木育の幼稚園・保育園事例・・・・・・・・ 13

育英幼稚園(目黒区)13/双葉の園保育園(目黒区)14/

西糀谷しろはと保育園(大田区)15/あかつつみ幼稚園(世田谷区)16/

さくらしんまち保育園(世田谷区)17/陽だまりの丘保育園(中野区)18/

中野みなみ保育園(中野区)19/せんかわみんなの家(豊島区)20/

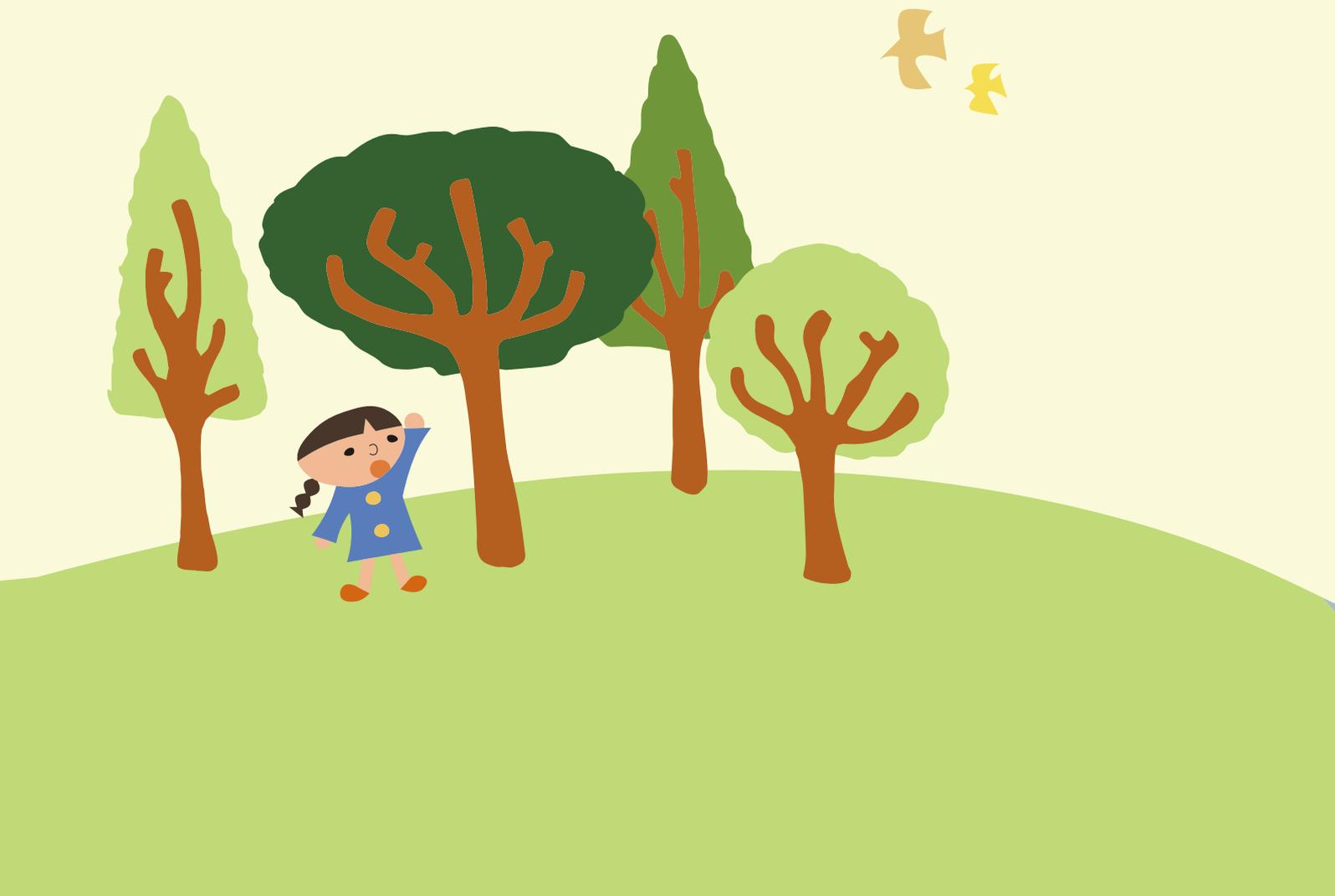
清心幼稚園(練馬区)21/妙福寺保育園(練馬区)22/鈴の音保育園(青梅市)23/

四谷保育園(府中市)24/わらしこ保育園(府中市)25/昭島ナオミ保育園(昭島市)26/

福生保育園(福生市)27/秋川文化幼稚園(あきる野市)28/

木育の施設・イベントの紹介・・・・・・・・ 29

木育Q & A・・・・・・・・・・・・ 32



## はじめに

本冊子を手にとっただき、ありがとうございます。

「木育」は、子どもの五感を育み、地域とのつながりを生み、よりよい保育環境を生むきっかけとなる、とわたしたちは考えています。

本冊子は、その手引きです。木育をどう取り入れるのか？園庭や園舎の改修工事から園児たちが直接手を動かすワークショップまで、あますところなく紹介します。

木育に取り組んでいる保育園・幼稚園等からは、子どもたちが木に触れることで、森のこと、木のこと、水のことを積極的に知ろうとしているとの声を聞きます。

そんな木育を取り入れた保育園・幼稚園等の事例もたっぷり載せています。

本冊子の取り組みは一例です。紹介したもの以外にも取り組み方法はたくさんあります。

本冊子が木育を取り入れるきっかけになることを、願っています。

東京都産業労働局農林水産部森林課



# なぜ『木育』が必要なのか

## 東京の森の現状

東京都の約4割を、森林が占めていることはご存知ですか？

森林は、木材の供給をはじめとして、水をキレイにしたり、二酸化炭素を吸収し酸素を放出したり、生物の多様性を保全したりと、様々な機能を有しており、わたしたちの生活に欠かせないものです。

東京都多摩地域の森林は、約6割がスギ・ヒノキなどの人工林で、樹齢が50年以上になる木が増えています。

スギは、樹齢30年を超えると花粉飛散量を増加させ、花粉症の大きな要因となっています。

また、森林は若くて生長が盛んな時期に多くの二酸化炭素を吸収しますが、高齢になると次第に吸収量が低下していきます。

そのため、今の東京都の森林（スギ、ヒノキなどの人工林）は、伐採の適齢期を迎えていると言えます。森林を伐採し、その木材を有効に活用し、また植樹をするという循環が、東京都の森林を健全に維持することに繋がり、わたしたちの生活にも好影響が生まれるはずです。





## 園庭・公園での木育



### 自然を五感で感じる P.11

園庭の樹木との関わり  
園庭の畑との関わり  
公園・社寺での自然とのふれあい  
(木の実拾い、草木、虫)



## 森林での木育



### 森林体験 P.12

保育・伐採・植樹・散策

# 木育 8つの方法

保育園、幼稚園等での8つの取り組みをご紹介します。

## 園舎での木育



園舎に木を使う P.05



木製の遊具や家具を使う P.06



木の食器や道具を使う P.07



木のおもちゃで遊ぶ P.08



木エワークショップ P.09-10

## 保育士や保護者向けの木育



木育の研修や資格制度 P.10

木育の資格講座  
研修ワークショップ

# 園舎に木を使う



## 目 (視覚)

色・模様・光沢から感じられる温かさ、明るさ、快適さ

## 木を使う メリット

## 肌 (接触感)

触ったときの温度  
手ざわりの違い  
やわらかさ

## 鼻 (臭覚)

木の香りによる  
リラックス効果

## 耳 (聴覚)

音を吸収することによる  
心地よい環境

※撮影協力：グリーンヒル幼稚園（八王子市）

## 木にはそれぞれ 特徴があります。

設置する場所や目的に合わせて、木の種類を選びます。

### 針葉樹（スギやヒノキなど）

熱伝導率が低いいため、断熱効果があり、冬は冷たくなりにくいです。また、柔らかいため傷はつきやすいですが、足ざわりがいいのが特徴です。

### 広葉樹（ナラなど）

熱伝導率が高いため、冬季は冷たさを感じる一方、目の詰まった重くて硬い木材なので傷はつきにくいのが特徴です。



### 床材・腰壁への木の利用

使用範囲が広がるので木に触れる面積も広く、木を感じやすいです。  
スギやヒノキを利用すると、その香りを空間全体で感じることができます。



### 建物で木を使う

建物の構造で木を使うことにより、長く親しみやすい建物となります。  
柱などを見せる設計にすることで、より木に包まれたような空間になります。



### ウッドデッキ

屋外のため、防腐処理やウレタン塗装などの処理を行うことで、スギやヒノキを使うことが可能です。子どもや先生たちの憩いの場になります。

# 木製の遊具や家具を使う



## おまごと小屋

かくれんぼや  
秘密基地など、  
多様な遊びの場に。



## ツリーハウス

園庭に生えている  
木を活かすことで、  
木を身近に感じながら  
遊べます。

## 木製遊具

## マグネットパネル

壁を有効活用した遊具。  
創造性を養いながら  
遊べます。



## 滑り台

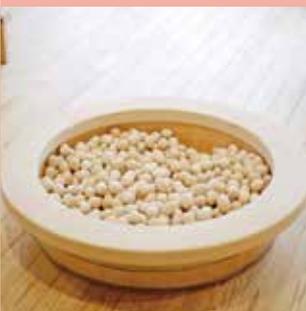
外遊びができない日など、  
室内での遊びが  
広がります。



まずは遊具から。  
木と触れあって心が育つ。

## ボルダリングパネル

壁の有効活用だけでなく、  
室内で体を使って  
遊べる場所に。



## 木のたまごプール

全身で木の香りを感じる  
ことのできる遊具。  
0歳から遊べます。

## スライド式飾り棚

間仕切りも兼ねることで  
空間が有効に使えます。



## フェンス

子どもに圧迫感を  
与えることなく、  
仕切りができます。



## 木製家具

## くつ箱

建物の入り口から  
木を感じられ、  
毎日木と触れ合えます。



## ロッカー

一人一人が木と触れ合い  
ながら大切に使う  
ことを覚えます。

身近な家具を木質化。  
自然と木に触れる機会が増える。

## 棚

木を使うことで、  
空間全体にぬくもりが  
感じられます。



## 机とイス

子どもが触れる  
機会が多く、  
木への親しみが深まります。





# 木の食器や道具を使う

生活で使う道具を木に変えてみると、身近なものを自分でつくることがわかります。

また、メンテナンスをしながら長く使うことで、自然と物への愛着や、大切にしている心が育まれます。

## 自分の箸を自分でつくる

それぞれの年齢に合った素材や方法でお箸づくりを体験します。例えば年少さん、年中さんはヒノキなどの柔らかい針葉樹を紙やすりで削り、箸をつくります。

年長さんになるとサクラなどの硬い広葉樹を削ることもできます。

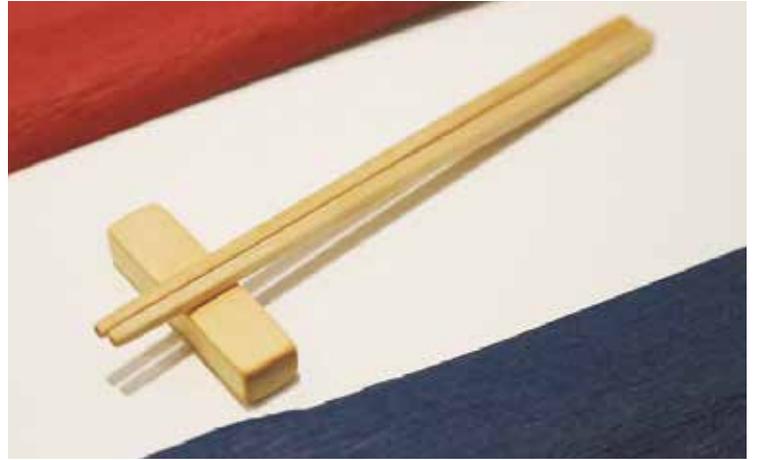
削った時の匂いや肌への感触、自分で加工するというを手軽に感じてもらうことができます。

すぐに飽きてしまう子もいるので、園によっては、ワークショップの時間だけで完成させるのではなく、日常の中に箸を作る時間を設けています。子どもの気持ちに合わせて少しずつ取り入れ、ゆっくり完成させます。

日々の中に、木と触れあう時間が馴染んでいくことで日本人が受け継いできた木と暮らす文化が育っていくのではないのでしょうか。

親子でお箸をつくるワークショップでは、親と子どもがそれぞれ自分のものをつくる場合や、お互いのものをつくる場合などバリエーションがあります。

普段園のイベントにあまり参加できていないお父さんの参加の場にも、木育が活用できます。



## 箸のお手入れ方法

使ったら洗ってよく乾かします。

見た目で箸がけば立ってきたら、布に油を少し含ませ、箸に塗り込みます。

使用する油は、亜麻仁油や米油など口に入れても問題ない油がおすすめです。



撮影協力：あすなる幼稚園

# 木のおもちゃで遊ぶ

## 木のおもちゃのメリット

人肌のような温かみがあるため、違和感を覚えることなく長く集中して遊べる

木のおもちゃには抽象的な形が多いので想像力や発想力が養われる

成長に応じてさまざまな遊び方ができる



木のおもちゃには決められた遊びがありません。積み上げたり、握ったり、転がしたり……遊び方は無限大!



2歳くらいから、繰り返す遊びが楽しくなってくるみたい。



握る、叩く、引っ張る、放す……ひとつひとつが成長のサインです。



つくってあそぶ

## ぼっくり

シラカバやサクラを使い先生たちにも手伝ってもらい、適当な長さに木をのこぎりで切り、穴あけ、紐を付けて手づくりしたおもちゃ。



## 積み木

職員さんが形に切って、園児たちがやすりがけした積み木。形、大きさがいろいろなのは、手づくりならではの、子どもたちの見立て遊びにぴったりです。

購入してあそぶ



## おすすめの木のおもちゃ



### みにますつみき

水の中でも遊べる升型のつみ木  
2018年グットトイ受賞



### 寄木の積木

日本に生育する樹木約10種以上を使用  
2012年グットトイ受賞



### KUMINO

大工の技術を応用 木を組む楽しさが味わえる  
2017年グットトイ受賞

# 木エワークショップ

## 園児が行うワークショップ

年齢や開催する場所、どこまで体験させたいかという園の考えにも合わせたワークショップを行います。1回きりではなく、回を重ね、学年が上がるごとに先のステップへ進むことで、できることが増えます。これは子どもたちにとって、ひとつの成功体験となり、生きるうえで大切な力や心を育むきっかけとなるのではないのでしょうか。

### Example 丸太切り



おがくずの香りは0歳から体感できます



年少さん、  
年中さんは木の皮を剥ぐ係



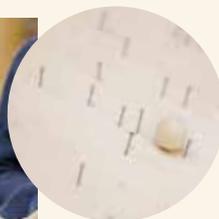
年長さんになると、のこぎりで木を切ることができます

### Example くぎ打ち

くぎ打ちは年中さんから体験できます。年中さんでは基本的なくぎを打ちができるので、好きなところにくぎを打ち、コリントゲームの土台などをつくることができます。年長さんになるとレベルアップし木と木をくぎでつなげて、椅子などをつくることができます。



年中さんでも、くぎを打ってゲームができた！



年長さんは、椅子がつくれます

## 親子で行うワークショップ

### Example ウッドチップ広場づくり

ウッドチップを敷くための木の枠を造りました。

枠木の運搬、切断などの力仕事がたくさんあります。ここはお父さんの出番です。枠ができたらチップを敷き詰め、いい香りの広場が完成です。

みんなの遊び場を力を合わせて造る体験ができました。

自分の手で造った広場は、より愛着をもって大切に使われます。



みんなで力を合わせて



お父さんの出番です



完成した広場は0歳の子から木と触れ合える場に

## 周辺地域の方とのワークショップ



### 思い出の桜をつなぐ

ある園の桜の木を、園舎建て替えのため伐採することになりました。そこで、ただ伐ってしまうのではなく、木育の教材として使用するというアイデアが。

その桜が長く地域でも親しまれた樹だったことから、地域の皆さんにも一緒に参加していただき、接ぎ木と箸づくりのワークショップを開催。園から地域へ広がり、みんなで木について考える機会となりました。こういった社会への広がり、木育の理想的な形でもあります。



接ぎ木するための枝伐り



お箸づくり

接ぎ木

## 保育士や保護者向けの木育

# 木育の研修や資格制度

### 木育をより楽しむために

子どもたちと木育を取り組むにあたり、道具の使い方や木についての知識があるとより発展的に進められるため、保育士や保護者向けに研修があります。2時間ほどの講義と実習で基礎的な知識と技術を身につけ、子どもたちとより木育を楽しむことができ、木育活動の幅が広がります。



### 参加者の声



木は伐ってはいけないと思っていた。

もっと木製品を使っていきたいと思った。

これで自信をもって園児に教えることができそう。

日本にそんなに森林があると思わなかった。

木工を初めて経験して楽しかった。

## 木育に役立つ 資格のご紹介

### ■保育ナチュラルリスト

身近な自然と触れあう観察や遊びを通して「自然のみつけれ方・感じ方・接し方」などの驚きや感動、たのしさ、おもしろさにつながる様々なヒントを学びます。



### ■木育インストラクター

園庭にある自然物の活用や木製品を、保育や暮らしの中に取り入れる方法を学ぶことができます。



### ■おもちゃコンサルタント

日本で唯一の総合的なおもちゃの認定資格。乳幼児の成長・発達とおもちゃの関わりから、お年寄りのリハビリまで、幅広い視点でおもちゃを捉え、優良なおもちゃ遊びをバランスよく与えることができる、心の栄養士です。

[お問い合わせ先] 認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会 <https://artplaylab.jp/>



# 自然を五感で感じる

まずは身近な草木に触れる体験を通じて、四季や時の流れを体感します。

## 樹木の再生 ～木を元気にする～

園庭の木は周りを踏み固められて弱っていることが多いため、樹木医の先生を呼び、診断をしてもらいました。樹木医さんに木の根の大切さなどを教わり、必要な手当てを行います。園庭の木も生きている実感がわくのではないのでしょうか。また、園庭の樹木の名前を知ることも木育の第一歩です。



※取材協力：八国山保育園（東村山市）

## 園庭で作物づくり

種まき、発芽、成長、収穫。作物は毎日変化していきます。話しかけたり、触ったり、時には傷つけてしまうことも。作物を育てることで、優しさや思いやりが身につきます。



## 公園、社寺で自然にふれる

お散歩などで公園や広場に行ったとき、そこにある樹木について話をしてみてください。木の名前、葉っぱの色や形のこと、花はいつ頃咲くのかなど。触ったり匂いを嗅いだり、木の枝、木の実、葉っぱなどを拾って、工作に使ってみましょう。



# 森林体験

森林の中で子どもたちは、普段見られない生き生きとした表情に変わります。虫や植物、土や樹木と触れ合うことで自然との一体感を体験するでしょう。

循環のしくみを伝えてから、森へ出かける園もあります。

## 保育・伐採

いったん人の手が入った森林は、管理を怠ると、森林の循環がくずれてしまいます。下草刈り、間伐、枝打ちなどは健全な森林を保ち、木を大きく育てるためには欠かせません。伐採を体験、見学することで、身近な木製品へとつながっていることを学びます。



## 植樹

伐採した後は、新しい苗木を植えます。大きな木になることを思い描くことで、森を育てる楽しさを学びます。



## 森林の散策

虫や鳥、野生の動物など森にはたくさんの生き物がいます。森林を散策することでたくさんの出会いがあります。

専門家の案内や自然遊びのアドバイザーを活用し、大人も子どもと一緒に学ぶことができます。



森の中を歩くと自然に危険を感じられ、安全な歩き方遊び方を覚え、走りまわれるようになります



森林で遊ぶようになると集中力が高まることもあるようです



## 木のおもちゃがきっかけに

当園は、立地の関係で子どもたちが木や緑に触れる機会が少ないのが現状です。わたし自身も「都会育ち」というコンプレックスがあり、園児たちにはもっと身近に自然に触れてほしいと考えていました。

木のおもちゃの使い方を考える「おもちゃコンサルタント」の存在を知り、資格を取得しました。わたしも木のおもちゃが好きでしたし、子どもたちにも木のおもちゃを使った遊びが広がっています。このことが、木育を取り入れるきっかけになりました。

副園長 河村 圭 さん

## 木育ワークショップをはじめて

年中・年長の園児に向けたワークショップを年に1～2回開催しています。はじめは私が主導でワークショップの内容を決めていましたが、今は先生たちから具体的なアイデアが出るようになりました。「絵本に出てくる椅子を実際につくってみたい」と、椅子づくりをしました。今後は年少の園児向けにも開催できるようにしていきたいです。

保護者からも興味・理解を示していただいています。園児向けにお箸づくりを行ったときにも、保護者向けの開催を希望する声があがり、それも実現させました。以降、木育ワークショップをするときには保護者が手伝ってくれています。関係の広がりを感じています。より木育の機会を増やしていきたいですね。

## ツリーハウス



「自分たちのときは  
なかったから、  
ちょっと残念」卒園児

「いいものができたねえ」  
地域の声

## 木工ワークショップ



「サマーフェスティバル」で  
丸太切り体験をしました

## コリントゲームをつくる



かなづちを持つ  
機会をと、盤に  
くぎを打ちました

## 絵本から発展



『どうぞのいす』に  
登場する椅子を、  
先生からの提案で  
造りました



## イメージーションの力

当園は、子どもの気持ちと意欲を大事にしています。園児は紙やダンボールを使った工作が大好きです。しかし、木工作は大人が援助しないとつくる機会がなかったので、何か簡単なものから取り入れたいと思っていました。年長児にひもの結び方を教えたいと思っていましたので、木の枝を組んでひもで結ぶというオブジェを作りました。

今では、先生方とわたしが主導して木工ワークショップを行っています。子どもたちが描いた絵を、廃材を組み合わせてカタチにしました。当然木を使うので直線の組み合わせになります。子どもたちのイメージーションの力が大切です。かなづちで、くぎを打つときは思いっきり。上手にできなくてもいい、工作が楽しくできればいいという時間です。

当初、道具の使い方を知らなかった先生方も今は上手に使っています。やりがいを感じてくれているのではないのでしょうか。



園長 西 大記さん

## 遊びのなかで学ぶ

園庭は、遊びのなかからいろいろなことを学んでほしいと、0～1歳児と2～5歳児の使う場所を分けています。園庭に木の枝や板などを置いておくと、子どもたちは遊びに変えていきますよ。自由に遊びに展開していく姿は見ていると楽しみです。大きいものの上に小さいものを置くと安定するというようなことを、遊びながら学んでいるようです。

### 絵をカタチにする



園児が描いた絵を木で再現  
先生と相談しながら組み立てます  
(東京都の補助事業で道具を購入)

### 2～5歳児の園庭遊具



階段がなく、  
よじ登るしかないので、  
小さな子は登れるように  
がんばります

### 0～1歳児の園庭遊具



木の遊具は  
園長と職員の  
手作り

入れるものによって  
棚の大きさや  
扉をつけるなど、  
先生方たちが使いやすい  
ように考えました  
※多摩産材を使用

### 園児が使う棚



# 西糀谷しろはと保育園

(所在地)

大田区



園長 岳尾幹子さん

## 職員の意識が変わった

職員の育成について考えていたときでした。ワークショップを担当する「Tree to Green」の方が木育のことを教えてくれたんです。「食育はあるけど、木？」と思いましたが、木だけではなく、自然の中で遊びながら職員も子どもも学ぶのでは……と思い、取り入れました。

すると、保育に深みが出てきました。散歩に行くのも目的をもって、自然に目を向けながらゆったりと声掛けができるようになりました。

木育活動で作ったバードコールを遠足に持って行こうと楽しみにしていたところ、雨が降って目的の場所に行けませんでした。

別の日職員が、バードコールを持って散歩に行こうと提案すると、子どもたちは大喜び！園児の気づきをたくさん引き出していました。



副主任 岩元由梨子さん

## 地域の関わりを大切に

1年を通じて、四季のめぐりの中で姿を変える樹木を観察しました。「松があるから秋になったら松ぼっくりができるね」「夏になれば梅の実がなるね」「冬はカモが来るね」と、子どもたちから気づくようになりました。

地域の方とは積極的に交流していて、お遊戯会やお祭りは招待しています。まるで自分のおばあちゃんのように手を離さずずっとくっついてる子もいますよ。この子たちが卒園したら、地域の目が不可欠。子どもの成長に、地域との関わりは大切だと考えています。

### 🏠 ごっこハウス



保護者と一緒に、古くなった遊び場をリフォーム

丸太の皮むき、伐採を体験「ヒノキ！」と種類を言えるように

### 🪓 丸太から平均台づくり



### 🌿 枝や木の実を持ち帰る



松ぼっくりや枝を使って、工作をするようになりました

寒々しかった印象が、がらりと変わりました ※多摩産材を使用

### 🏠 エントランス





## 補助事業がきっかけに

当園は「赤堤六所神社」の境内にあり、緑や土と触れ合える良好な自然環境に恵まれています。日頃から、自然に触れさせたいという思いをもつ保護者が多いので、木育には理解があります。

2017年に、園庭に面したデッキと靴箱を新たに造り変えました。そのときに、事業者から東京都の補助事業があることを教えてもらい、木育の存在を知りました。

自然がそばにある立地ですが、これまで樹々の観察など、実際に触れる機会を積極的に取り入れてきたわけではないんです。木育との出会いは、いい機会になりました。

副園長 駒野まりさん

## 木育をはじめて

木のおもちゃを購入しました。パレット積み木は、しっかりした材でできているため、高く積み重ねることもできます。また、卒園記念にはマイ箸づくりを行いました。子どもたちも保護者も先生たちも喜んでくれたので、来年も続けたいと思います。

先生方には「保育ナチュラリスト」の研修を、全員受講してもらいました。現在、2名の先生が「木育インストラクター」の資格も取得しています。

境内で拾ったどんぐりや松ぼっくりを園内に飾る工作をするなど、先生方にも変化が見られます。

神社境内には木がたくさんあるんですが園庭には少ないので、今後は園児と一緒に植樹がしたいです。

### 神社の隣の立地を活かす



大きな木の下で、遊べる環境

### 木の实を使った飾り



「木育をはじめてから、木の枝や木の実で工作するようになりました。」  
先生

### マイ箸づくり



子どもたちの思い出づくりに

### デッキ&下駄箱



この導入が、木育を知るきっかけに  
※多摩産材を使用



# さくらしんまち保育園

(所在地)

世田谷区

## 職員の育成にも

木育のきっかけは、1階につくったウッドデッキです。園庭がないため、子どもたちが遊べる空間を増やしたいと設置しました。

合わせて職員が木育の研修を受講できるしくみもあり、小松真吾先生が「保育ナチュラリスト」を取得しました。ウッドデッキの導入と小松先生が保育ナチュラリストを取得したことで、当園の木育への熱が高まり、木育がより活性化しました。

今後も、資格取得を目指す保育士が増え、木育活動の幅が広がるといいと思います。

園長 小嶋泰輔さん



## 考えて遊ぶ子が増えた

当初安全性を心配する声もありましたが、木育ワークショップを通じて、今は園児だけでなく先生たちも楽しむようになっていきます。木に触れる時間が増えたことを、多くの保護者も喜んでくださっています。

ワークショップを体験した子どもたちは、木の表情や造形のおもしろさを見つけるようになりました。見立て遊びをしたり、自分で遊びを考える子が増えてきましたね。

水はけの悪かった屋上の砂場を「ウッドチッププール」にしました。大工さんに教わりながら、お父さんたちと一緒に作業するワークショップを開催しました。お父さん同士が声をかけ合い作業を進める姿を、子どもたちに見せられたことがなにより大きな収穫だったと思います。

保育士(保育ナチュラリスト)  
小松真吾さん

## 🔧 ウッドチップづくり



親子で参加する  
ワークショップで  
製作しました  
「魚の切り身みちい」  
という見立て遊びも

「子どもたちの  
遊び方が変わりました」  
園長

## 🏠 屋上デッキ



## 🎲 丸太を遊具に



屋上の園庭で、  
木に触れる遊びを

このデッキが、  
木育をとりいれる  
きっかけになりました  
※多摩産材を使用

## 🏠 ウッドデッキ



## 命を大事にする

生きているものと触れ合うことを大事にしています。食育も同じだと思います。畑で大豆を育てて、枝豆やきな粉、味噌や納豆、豆腐を作る。素材から口に入るまでの過程を見ていくことは、子どもたちの興味の幅が広がるんです。木のおもちゃにしても、使い方や経年によって変わっていくからこそ、おもしろい。

ワークショップで炭焼き体験をしたのですが、「書道で使う墨汁と、炭はどう違うのか?」と実際に炭から墨汁を作った子もいました。子どもの柔らかい発想で、今後の木育の取り入れ方も変わってくると思います。

園長 曾木書代さん



## 自然とつながる実感を

和紙づくりのワークショップは、作業が断片的にならないように気をつけました。<sup>こうぞ</sup>楮と呼ばれる植物が紙になる、はじめからのプロセスを体験することが大切だと思います。他にも、一本の木から丸太切りにし、椅子、スプーンやお箸づくりを行いました。

ワークショップは子どもたちにも大きな影響を与えていて、木のおもちゃを大事に扱うようになりましたね。

過程を理解することで、わたしたちは地球の生きているものの一部である。循環のなかにいるということ、木育を通じて学んでいけたらと思っています。

## 和紙づくり

### 藤棚



季節に楽しませてくれる、  
園庭のシンボルに  
※多摩産材を使用



楮を切るところから学び、  
子どもたちも先生も  
たくさんの気づきや  
想いを共有

### おままごとセット



子どもたちに  
人気のおもちゃ

稲を植えて、  
収穫して、  
玄米にするという  
プロセスを大事に  
しています

### 園庭でつくった稲



# 中野みなみ保育園

(所在地)

中野区

## いのちのうっしかえ

都会の中にある保育園は、自然との関わりが薄くなりがちです。だからこそ「木育」に必要性を感じています。難しく考えずに、木のおもちゃを取り入れたり、散歩のときにちょっとした工夫をしたりと、保育のなかで自然と木育活動を行っていけばいいと思います。

職員にも、「しなければならない」というような義務感をもってほしくない。子どもたちと一緒に生み出すような木育を願っています。

園舎の建て替えにあたり、園庭の桜の木を伐らなくてはいけなくなりました。ただ伐って片付けるのではなく、子どもたちの思い出に残るものにしたいと考えました。伐った桜の枝を「いのちのうっしかえ」として接ぎ木するワークショップを開催しました。また、「Tree to Green」さんとのご縁で、桜の木を使ってお箸づくりやぼっくり、首飾りを作りました。子どもたちに自然と人が共に生きていることを伝えられたらと思っています。



園長 長橋礼和さん

## 職員たち主導で

木育をはじめたのは前園長でした。はじめたときは、もともとの園の保育と大きく違いがなかったので、わたしたちも木育をスムーズに取り入れることができました。ただはじめは木育をどう取り入れたらいいかわからなかったので、手伝ってくれる事業者に依頼しました。

次の年からは職員だけでもできることをはじめました。たとえば季節ごとの散歩コースを話し合ったり、木の実を砂場に置いて子どもたちの反応を見たり。日常から木育を取り入れています。

保育士(木育担当)  
江連百合子さん

### 園庭の桜の木を伐り倒す



年長・年中の園児たちも、ノコギリを使い枝を伐りました

伐り株と木が遊具に

### 伐採した木を活用し遊具に



### いのちのうっしかえ



伐採した枝を、新しい木の芽となるように接ぎ木

普段使う自分のお箸をつくりました

### 伐採した木で箸づくり



## 子どもたちの「木で家をつくりたい」という声から.....

きっかけはお泊りキャンプの下見で『箸づくり』の看板を見つけたことです。普段から小枝を拾って遊びに取り入れる姿があったので、その姿をお泊りキャンプの目的の一つの『自然の中で五感を使い、原風景となる自然を体感する』につなげていけないかと考えていました。箸づくりを通し『見立てることから木で何かを作る』ことに広がり木育事業で大きなもの作成できることを知った子どもたちが、「段ボールで作る家はすぐ壊れるので壊れないおうちを作りたい。」となり木のおうち作りが始まりました。木のおうちづくりでは保護者の方も一緒に参加しました。



園長 和田満佐代さん

## 木が身近になっている

細いスギの木にボルトを入れて回すことで鳥の鳴き声に似た音を出す「バードコール」作りでは、遊んだ後の振り返りで子どもたちは、それぞれ自分が感じた鳴き声や様子を文字や絵で表現していました。思っていた以上にいろいろな言葉や表現が出てきました。その後の散歩では、今まで以上に草木に触れたり木の実を拾って調べたり、子どもたちの気づきが増え木育の芽が芽生えているのではと感じています。今は子どもたちから「水に浮かぶ木の舟を作りたい。」と声が上がっているので、それをどのように実現していくのか子どもたちと試行錯誤中です。

保育士（木育担当）  
加賀美千代さん

## 木のおうち



どんな家をつくりたいか  
子どもたちと  
相談しました

## バードコールづくり



バードコールの  
音色をきいて  
「とりとりが  
おはなして  
いるんだよ」

## 丸太遊び



自分たちで切った  
丸太を並べて  
遊具に

## 木舟づくり



「次は船を  
つくりたい」と  
子どもたちが  
色々な木材を集め  
船づくりが  
始まりました



# 清心幼稚園

(所在地)

練馬区

## 「いいにおいがするね」

都立石神井公園に隣接し、四季折々豊かな自然が傍にある当園。この恵まれた環境がもたらす多様性のなかで子どもたちは、さまざまな体験を積み重ねていきます。

園で継続して行っている木工活動は約20年になります。この木工活動を実施する際に父親の参加をお願いしており、その流れでお父様方に多摩産材での床張、机と椅子の組み立てをしていただきました。

もともと園舎は木造なのですが、さらにスギやヒノキから漂う木の香りを胸いっぱい吸って子どもたちはとても健康です。

園長 清水 進 さん



## 「ここは宝物の山だね」

園庭には保護樹林に指定されている大木が4本あり、ツリーハウスやロープのぼりなど、子どもたちが思い切り遊べる場所となっています。

また木育のご縁から園を飛び出し、埼玉県飯能市の山林にもフィールドを広げています。お父様方が「木こりの会」を立ち上げて、「山菜ツアー」や「間伐材伐採ツアー」などを親子で体験しています。山に入った子どもが木の実・枝・野草などさまざまな自然素材を見つけ、目を輝かせて「ここは宝物の山だね」と感嘆の声をあげていました。

子どもたちの表情も大きく変わる木育活動。今後も保護者と一緒に活動の幅を広げていきたいです。

### 木を切り出す経験を



埼玉県飯能市  
でのフィールドで

### 椅子、机、床



父親に参加してもらい  
手作りすることで、  
コストも抑えられた  
※多摩産材を使用

### 木登り遊び



「ノコギリやかなづちを  
使いこなすお父さん、  
かっこいいな」園児

樹齢100年を超える  
イチヨウは  
人気の遊び場  
上についている鈴を  
鳴らすために登ります

### 保護者と一緒に



## 林に行きたいと言う子どもたち

妙福寺の名の通り、寺が運営する保育園です。園長であるわたしが住職です。以前の園長は、境内で遊ぶことを禁止していたのですが、のびのびと遊んだらいいと思って、現在は一部開放しています。

木育のきっかけは、子どもたちを見ていて「自然の中での遊び方を知らないんじゃないかな?」と思ったことでしょうか。境内にある林の中で遊ぶために、自然あそびのアドバイザーに来てもらいました。彼女は、子どもたちから「ケロちゃん」と親しまれています。木育のことも、ケロちゃんから教えてもらいました。

ケロちゃんのおかげで、子どもも先生も園庭とは異なる魅力に気づき、自由時間には林で遊ぶようになりました。集中力や考えて行動するといった変化もあります。



園長 戸田了達さん

## 保護者も子どもの変化に感動

保護者に対しては、遊び方を説明してきましたが、抵抗感をもつ方もありました。取り組みを続けていくうちに、子どもたちの変化に感動したという声があがるようになっていきます。

今は、自然を取り入れた保育に前向きな保護者ばかりです。ウッドデッキのメンテナンスでオイルを塗る作業など、積極的に関わってくださっています。今後は、卒園した保護者にも声をかけて、園庭に遊具のタワーを造りたいですね。

### 境内の林が遊び場



林の整備に伐採した伐り株で、見立て遊びをする姿も

種から育てた苗木を2018年に植樹

### 園庭の樹々



### おままごとセット



子どもたちに人気の遊び場 ※多摩産材を使用

### ヒノキの床



2歳児の部屋の床に、ヒノキの木を使用「今後も増やしていきたい!」園長 ※多摩産材を使用



# 鈴の音保育園

(所在地)

青梅市

## 職員と共に造る

東京都の補助事業をきっかけに、園庭の全面改修をしました。子どもたちにとってふさわしい園庭の実現に向けて意見を出し合ったり、他園に見学に行ったりして、職員のモチベーションやスキルアップにもつなげたいという思いもありました。

定期的に委員会を開き、時には模型を使って園庭の造作を検討したんです。「歩くことがまだおぼつかない子にも、安全で歩きやすい地面にしたい」とか「かくれんぼの場所を造ってあげたい」という意見が出ました。プロとして子どもに関わる職員ならではの意見に、何度も驚かされました。

この取り組みはHPを活用し、話し合いから工事の様子を発信しました。地元のメディアに取り上げてもらうなど、情報発信を続けていくことで、職員が園の説明をしやすくなったようにも思います。



園長 館 盛人さん

## 林業の現場へ

園庭改修で木を伐り出した林業の現場へ、4・5歳児の遠足で出かけました。木を伐り出した場所や植林された場所を歩き、製材所『中島林業』の方から園児に説明をしていただきました。奥多摩の人たちは、体験学習を歓迎してくれています。

子どもたちは山の体験から、自然の大きさを意識するようになったようで、外に出るとどんぐりを拾ったり、鳥の声を聞いたり、自然に対してより興味をもった気がしますね。

### 🌳 ツリーハウス



満開のサクラとともに  
ツリーハウスで  
過ごす  
※多摩産材を使用

里山の傾斜や、  
子どもの動きの関係を  
考えました

### 🌳 里山を手本に



### 🌳 自然に親しむ庭園に



「公園に遊具があふれている現在、  
園庭に必要なものは  
『自然』 園長

本物の木の現場へ  
行くことは、  
一生の宝ものに

### 🌳 製材所に遠足へ





園長 阿部高子さん

## 木は日本の文化の礎 いしずえ

当園は0～2歳児をお預かりする、小さなうち保育園です。木育を取り入れたきっかけは、園の全面改修です。府中市からの情報で、東京都の補助事業のことを知りました。

木は日本の文化の礎ですね。木のぬくもりというのは、人間に染み込んでいると思うんです。ですから、改修をするのだったら全面的に木を使ったものにしたいと考えていました。

おかげで、スギやヒノキの香りが広がる園舎になり、「いながらにして森林浴ができる」と、保護者もずいぶん喜んでくださっています。

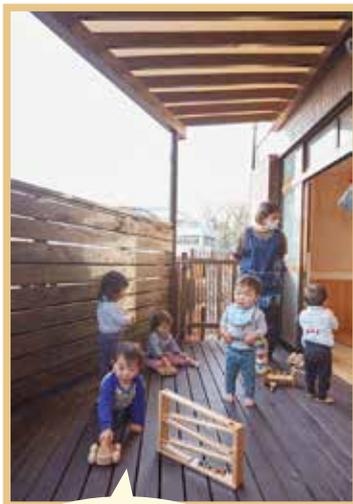
寒くて薄暗くて、子どもたちも怖がっていたトイレも、断熱材を入れ無垢材をふんだんに使った明るく居心地のいい空間にしてもらいました。

## 地域の人たちと共に

園庭がなく、限られたスペースでの保育ということもあるので、毎日お散歩へ出ています。そのため「お散歩マップ」を、四季のうつろいや、歩くのに注意するポイントなどをまとめて保護者に見てもらおうようにしています。これは先生たちに代々受け継がれていることで、豊かな積み重ねだと思います。子どもたちからも「柿～!」「みかん～」と、自然を発見する様子が見てとれます。また、先生方が率先して地域の皆さんに声をかけてくれるので、子どもたちも「こんにちは」とごあいさつができるようになりました。毎年12月には、地域の未就園児を招いてヒノキのカンナくずを用いたクリスマスリースづくりも行っています。

お散歩が楽しくなる「保育ナチュラルリスト」は、現在は3名の先生が資格を持っています。

### ウッドデッキ



室内から出る際に、段差ができないよう板をはめる工夫

職員も安心して使える仕様に

公園だけでなく、あぜ道や雑木林のポイントも

### トイレの改修



地域の方にも好評のクリスマスリースづくり

### お散歩マップ



### 木育の輪の広がり



# わらしこ保育園

(所在地)

府中市

## 「俺が伐った木」

風の音や日の光といった、自然そのものを体感してもらうことを大切にしています。四季折々の気配を感じたり、五感を使って遊びきることで、丈夫でしなやかな心と身体が育っていくと考えています。もともとあった園の取り組みに「木育」を合わせているといったところ です。

木育のことは、奥多摩で活動する「森と市庭」さんに東京都の補助事業のことを教えてもらって、2017年度から取り入れました。そのときは、キットで建てる小屋、木の仕切りを6台、2018年度は1歳児が使う棚を購入しました。

春と秋には、遠足に出かけました。奥多摩の山で森林伐採とまな板づくりを体験しました。園庭の裏に伐採した木を置いているのですが、「これは俺たちが伐った木なんだよな」と、子どもたちも意識しているみたいです。



主任 橋爪優子さん

## 日常に木がある

外に出て遊ぶときには、ケガはつきもの。やはり心配される保護者もいらっしゃいます。けれど、子どもがどんどんたくましくなるにつれて、心配は減るようです。最近、保護者と共催のお祭りをして、竹ぼっくりづくりやブンブンゴマ、押し花づくりを共に楽しんでいます。

子どもたちも、散歩で見つけた枝や葉を使って遊びをつくりだすのが上手です。なにもないところから遊びを生み出し、お友達とつながっていくのが見えて嬉しいですね。

### 🏠 触るところは木を



園舎は木造に  
こだわっています

「心地のいい感触、  
音を感じてくれれば」  
先生

### 🧸 0歳児から木のおもちゃを



### 🌳 丸太切り



山で伐り出してきた  
丸太は園庭での  
遊び道具に

「散歩にもよく  
行きますが、  
あふたくなれば  
パンツ一枚で泥遊びを  
しています」先生

### 🏡 園庭の自然遊びもめいっぱい



## 0歳から木に触れる



園長 伊能恵子さん

これまでも木にはこだわっていましたが、プラスチックのものはなるべく使わずに、園舎の木質化も自然体験もしていました。それを「どうやって子どもに伝えるか？」を考えめぐっていたような気がします。「木育」という言葉も知りませんでした。

当園は「共に育てる」をテーマに掲げているので、保護者の方には保護者会に参加してもらうように入園のときからお願いしています。親子工作やアルバム制作を保護者と一緒にやっていたので、木育に関しても自然に取り組むことができました。

0歳児から木に触れてもらおうと、上の学年の子たちと一緒にヤスリをかけて木のボールプールをつくりました。子どもたちは1つがんとするとすぐ飽きてしまうので、大変でした。療育<sup>\*</sup>の面でも効果があることがわかったので、地域の方にも開放している場所で、子どもから大人まで木の効能を受けにいらしていますよ。

## 全員が、木育インストラクター取得

岐阜県立森林文化アカデミー教授の松井勅尚先生に来ていただき、職員に木育研修をしました。全職員が、「木育インストラクター」の資格を取得しています。

それまで折り紙で作っていたリースをお芋のツルを使って作るようになったりと、職員と子どもたちのアイデア・技術も進歩しました。子どもたちも、自然物に目を向けるようになりましたね。

※療育 障害をもつ子どもが、社会的に自立することを目的として行われる医療と保育のこと。

### 園庭のアスレチック



チップもしきつめている  
※多摩産材を使用

### スギの箱椅子



日々手に触れる  
棚を木化した  
中のカゴは  
先生たちの手作り  
※多摩産材を使用

### 0～1歳用の遊具



「地域に開放し、  
どなたでもご利用  
いただけます」園長

### 木製おもちゃ大活躍



保護者向けのイベントも  
多いので、  
待っている子どもが  
遊ぶおもちゃも木製



# 福生保育園

(所在地)

福生市

## 多角的に自然に触れられる

当園には、自然遊びのための「探検隊」と呼んでいる専門の職員や、元・木工職人の職員がいるので、環境にも人材にも恵まれていると思います。

これまでやってきたことに木育は遠くはなかったのですが、園庭整備のタイミングで東京都の補助事業のことを知りました。

パネルシアターを購入し、子どもたちに川と山の関係の話をしました。「川がきれいであるためには、木が大事」という話をし、実際に探検隊で山に行き、樹々に触れてきました。子どもたちは、木の質感・色形・香りが違うことに注目していました。スギとヒノキの違いはもう分かると思いますよ。

主任保育士  
小林伸成さん



## くぎを打つ感覚を

木工の基本である、ノコギリやくぎを打つ体験をしてもらっています。積み木や巣箱をつくったり。園庭の巣箱には、ちゃんと鳥が生活していますよ。

いまは親の世代でも工具を使わない人も少なくないので、くぎを思い切り打つ感覚を味わってもらいたいですね。ケガを恐れるのではなく、広い学びの機会になればいいなと思っています。

木育と、あんまりかまえずに、子どもたちが「楽しいね」と言ってくれることを大事に、これからも一緒にできることを考えていきたいです。

職員 吉野壮太さん

## 🏠 エントランスをリニューアル



木工職人であった吉野さんが担当。保護者への情報発信の場でもあります

新方にクライミングを取り付けて、遊びの幅を広げました

## 🏠 ツリーハウス



## 🐼 手づくりの積み木で遊ぶ



5歳児がヤスリがけをしました。子どもたちに人気のおもちゃ

園児がくぎを打って作ったコリントゲーム

## 🔪 おもちゃを作る



## 生きる力を育てる

当園の周辺がとても自然に恵まれた環境のため、その自然を積極的に取り入れた教育環境は「木育」と深いつながりを感じました。

園児達は森に出かけ、木に登り、土手を滑り、ロープで作った特製ブランコで自然を満喫して遊びます。また、60年生のスギの大木を目の前で切り倒すシーンを、毎年4歳児に見せています。その大木を輪切りにした木片が園庭に運ばれて来ると、子ども達は手に取って転がしたり、並べて飛んだり、皮をむいたり思い思いの遊びを始めます。整形されていないありのままの自然物は、子ども達の想像力を豊かにし、自分の世界の遊びを広げることができます。伐採から1年たってもその木片は、割れて形を変えていきますが、子ども達の玩具として十分に活用されています。



園長 池谷善郎さん

## 子どもから親へ

木育活動を先生たちに強制はしたくないと考えています。あくまでも、わたしが主体となって動いています。最近、木育によって園児が変わってきたことを先生たちも気づき始めているようです。

SNSでの情報発信も積極的に行っています。教育方針や園としての想いと合わせて、木育活動についても外に向かって発信しています。

子どもが「すっごく楽しかった！」と家に帰って親に話すことで、木育の成果や子どもの成長が感じられると思うんです。子どもから親に伝えることで、幼稚園の取り組みが保護者にも広がっていくことを実感します。

### 木片あそび



木目をじっとみたり、おままごとに使ったり遊び方はさまざま

子どもたちの動きを元に、体操の先生と考案した

### 小さな子も載れる平均台



### マグネットパネル



木の壁に木がくっつく不思議さに園児も夢中!

体を使って、思いっきり遊ぼう!

### 木の枝とロープのブランコ



# 木育施設の紹介



## 東京おもちゃ美術館

所在地：東京都新宿区四谷 4-20 四谷ひろば内  
 e-mail yotsuya@art-play.or.jp  
 HP : <http://goodtoy.org/ttm/index.html>



お問い合わせ先  
 認定 NPO 法人  
 芸術と遊び創造協会  
 TEL 03-5367-9601  
 FAX 03-5367-9602

開館時間：10：00～16：00（最終入場 15：30）

休館日：木曜日（祝日の場合は開館）

※特別休館日があります。詳しくはHPをご覧ください。

入場料：こども 500 円

おとな（中学生以上）800 円

おとなこどもペア券 1,200 円

団体料金あり

団体専用ダイヤル：090-6704-1507

障害者手帳をお持ちの方無料（本人のみ）



### 赤ちゃん木育ひろば

0歳～2歳の赤ちゃんとお家の方を対象にした赤ちゃん専用の部屋です。暖かみのあるスギの床材、木のおもちゃいっぱいの部屋で、赤ちゃんも大人もゆっくり過ごしてリフレッシュできる空間です



### グッドトイ展示室

日本のおもちゃの中から優良なおもちゃを全国のおもちゃコンサルタントが選定し展示



### おもちゃのもり

日本各地の職人さんが作った木のおもちゃが勢ぞろい。床は総ヒノキ



日本グッド・トイ委員会が展開している「木育」の行動プランのこと。「木」を真ん中に置いた子育て・子育て環境を整備し子どもをはじめとする全ての人たちが木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らしを送ることができる取り組みです



育み、ハグする。木の温もりにふれながら遊べる屋内施設

京王あそびの森



京王あそびの森 HUGHUG 〈ハグハグ〉

所在地：東京都日野市程久保3丁目36番60

アクセス：多摩動物公園下車すぐ

TEL 042-591-8989

<https://www.keio-hughug.jp/>



営業時間：9：30～17：30（最終入館17：00）

ハグハグカフェ：10：00～17：30

※カフェは土日祝10：00～18：30

ハグハグショップ：9：00～18：00

休館日：水曜日（祝日の場合は翌木曜日休館）

年末年始

ご利用料金：通常料金 子ども（6か月～小学生）最初の30分600円その後15分毎200円

平日フリーパス1,400円

大人（中学生以上）700円 延長料金無し、夕方親子パス（平日、土休日の15時以降）1組1,400円



きりかぶハウス

多摩産材のスギ・ヒノキを  
使用した遊び場

もりのあそびば

多摩産の木でつくられた大型複合遊具など、  
全身を使って遊べるスペースです



はいはいパーク

多摩産ヒノキの床材がやさしい

乳児専用エリア



# 木育イベントの紹介

## 東京おもちゃまつり

親子参加に  
おすすめ

- 全国のおもちゃコンサルタントを中心に、木のおもちゃを扱うメーカー、自治体、さらには遊びに関わる関連企業から大道芸人まで、総勢 100 団体以上の出展者が繰り広げる、おもちゃの大イベント！
- 開催場所：新宿区 東京おもちゃ美術館四谷ひろば
- 開催頻度：年 2 回
- 主催：認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会



## 木と暮らしのふれあい展

親子参加に  
おすすめ

- 木とのふれあいを通じて「木のぬくもり・やわらかさ」や「森の大切さ」を知り、身近な暮らしの中で木を使うため、東京の木 多摩産材をはじめ、日本各地の木材で、木とふれあう木工作などの体験や木製品の展示販売、キャラクターショーなど、ご家族で楽しめるイベントです。
- 開催場所：江東区 都立木場公園イベント広場
- 開催頻度：年 1 回（10月開催）
- 主催：東京都／一般社団法人東京都木材団体連合会



## 森のめぐみの保育環境セミナー

保育士・保護者に  
おすすめ

- 「木育」の重要性と現状について専門家からのお話と推進事業や保育現場の実践報告から学び、保育環境について考えあうイベントです。
- 開催場所：新宿区 東京都庁都民ホール
- 開催頻度：年 1 回（秋ごろ開催）
- 主催：東京都／認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会



## 東京ひのはらんどエコツアー

保育士・保護者に  
おすすめ

- 地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力や価値や大切さを理解し、環境保全につなげていくことを目指し、自然や文化を守りながら地域の魅力を体験するプログラムです。
- 開催場所：檜原村
- 開催頻度：毎月開催 ※プログラムにより開催日が異なります
- 問い合わせ先：NPO 法人フジの森 <http://hinohaland.tokyo/>



※各ツアーの参加についての詳細は HP をご覧ください。



**Q1** 『木育』についてもっと詳しく知りたい

**A1** まずは木育に関するホームページ等をご覧頂くことをお勧めします。東京都の木育についてのホームページ※2ををご覧ください。また、東京都では「保育環境セミナー」(P31参照)を開催していますので、ぜひご参加ください。

**Q2** 木育を進めるうえで使える補助金がありますか？

**A2** 東京都では木育に関する補助事業を行っています。詳しくは補助事業についてのホームページ※3をご覧ください。東京都森林課※1にお問い合わせください。

**Q3** 森や木にふれあってみたい

**A3** まずは身近にある森林や公園を調べてみてください。そしてぜひ、気になった場所へ出かけてみてください。多摩地域にも散策道が整備された森があります。

**Q4** 木の内装や家具はお手入れが大変そうで心配

**A4** 無垢の木の場合、日常のお手入れは乾いた雑巾または、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を含ませて固く絞った雑巾で拭きます。頑固な汚れなどはサンドペーパーで削りとることができます。※仕上げワックスや塗料によりお手入れ方法は異なります。

**Q5** 木のおもちゃや遊具はすぐ壊れたり、汚れたりしてしまいそうで心配。

**A5**

- 木製の遊具やおもちゃはお手入れを上手にすることで長く使ってもらえます。**
- 保管**…直射日光を避け適切な湿度で保管してください。
- 汚れ**…簡単な汚れは消しゴムで、落ちない場合は固く絞った布で水拭き(アルコールティッシュなどで消毒も可能ですが、完全に乾かしてください)。
- ささくれ**…目が細かい紙やすりで磨いてください(塗装品はご注意ください)。
- 隙間**…木の収縮により継ぎ目に隙間や割れができた時は、木工用のパテで修復することができます。

[本冊子に関するお問い合わせ] 東京都産業労働局農林水産部森林課 TEL:03-5320-4855 ※1

木育に関する HP ※2 <http://mokuiku.metro.tokyo.jp/>

補助事業に関する HP ※3 <http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/nourin/ringyou/kiiku/tama/sanzai/>

[企画] 株式会社 Tree to Green [編集・製作] 株式会社タマプリント



木育に関する HP



補助事業に関する HP



【発行元】

東京都産業労働局農林水産部森林課

住所 東京都新宿区西新宿 2-8-1

電話 03-5320-4855

登録番号(30)261

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。